

笑顔と元気の花が咲く

日野高シヨップが開店



たくさんの人出でにぎわう

日野高校の生徒たちが作った野菜や草花、農産加工品などを低価格で販売する「日野高シヨップ」が、5月から12月までの第2土曜日に、町商工会館前（根雨）で開かれています。

5月14日の開店初日には、同校郷土芸能部の荒神神楽が披露され、華やかな開店セレモニーとなりました。当日は、新鮮な野菜や草花、農産加工品を買い求める多くの地元住民らでにぎわい、行列ができるほどの大盛況でした。

日野高シヨップは、農業科目やマーケティング科目を選択する生徒が販売を実践することを目的に開かれています。

心を込めて苗植える

根雨小学校で田植え



1年生は初めての田植えを楽しむ

毎年恒例になっている根雨小学校（唐来秀夫校長、106人）の田植えが行われました。地域住民らが見守る中、大田秀明教頭が「根雨小学校の田植えは、今年で24回続いている伝統行事です。田起こしなど地域の皆さんのおかげで行えます。丁寧に植えましょう」とあいさつ。全児童が参加する田植えはとてもにぎやか。あちらこちらで歓声があがりました。

当日、参加した地域の人は、「去年から参加しています。とても楽しかった。次は稲刈りに参加したいです」と元気をもらったようでした。植えたのは「ヒメノモチ」で、収穫後はもちつき大会が開かれます。

里山で田植え体験

下上菅地区で田植え交流会



若者が多く参加し、盛り上がった

都市消費者と里山の生産者が田植えを通して、里山の素晴らしさや厳しさを体験してもらいたいと、5月14日、下上菅地区内の水田で、田植え・代満交流会が開かれました。当日は町内外から多くの参加があり、地元住民が歌う田植え歌を聞きながら田植えを楽しみました。また、田植え後の代満交流会では、山菜中心の昼食が準備され、春の味覚に舌鼓を打ちました。

下上菅地区の住民らはそれぞれ役割を持ち、地区を訪れる人をもてなしました。水田に苗を植える早乙女役や田植え歌を歌う役、代満交流会の料理を作るなど、地区が一丸となって取り組んでいました。

元気に育つてね

ひのっこ保育所稚アユ放流



「元気に育つてね」と放流

日野川のアユ解禁を前に、ひのっこ保育所年長児による稚アユの放流が、5月19日、黒坂カワコふれあい公園で行われました。

主催した町水産振興連合会会長の生田正明さんが、「大きくなあれと願いながら放流してください」とあいさつ。参加した園児12人は、バケツの中で元気よく跳ねる稚アユに歓声をあげながら「大きくなあれ」と声をかけて放流していました。

この日放流したのは5000匹。生田さんは、「大雨で日野川の水量が増え、アユが好むコケが流れてしまったが、解禁日に釣れるよう期待しています」と元気に泳ぐアユの様子を見ていました。



担当者が出席者にリサイクルについて説明

資源リサイクルに期待 (有) 赤松産業開所式

土木工事や環境資源リサイクル事業を営む有限会社赤松産業（赤松康近社長）が、貝原に本社と日野処理施設を整備し、5月31日、開所式が行われました。

処理施設は環境保全、資源リサイクルの観点から伐採木を破砕し、その粒度により、燃料チップや農業資材、法面吹付などのリサイクルに活用されます。粒度選別ができる機械の導入は県内初。

また、破砕機は移動が可能で、伐採現場での粉砕ができ、伐採木を運搬する費用がかからないのも魅力。

開所式には、町や県など関係者が出席し、テープカットなど華やかに執り行われました。



正確な操法は訓練の成果

訓練の成果を發揮 町消防ポンプ操法大会

消防団員が消防ポンプの操作技術を競う、町消防団ポンプ操法大会が、5月22日、ひのっこ保育所で開かれました。

町内3つの分団の選手が、ポンプ車を操作して標的に向かって放水、それを終了するまでの規律動作や時間などを競いました。日ごろの訓練で身に付けた技術を披露した結果、第1分団が優勝しました。

7月3日には、県西部消防ポンプ操法大会が、県消防学校（米子）で開かれます。

【結果（順位）】

- 1位 第1分団
- 2位 第2分団
- 3位 第3分団



小黒さん（中）がやさしく指導

木のおもちゃを被災地へ 木のおもちゃづくりワークショップ



ふれあいながらミュージカルをPR

ミュージカルの支援を 町民ミュージカル実行委員会がバザー

今年、第10回目を迎える町民ミュージカルを盛り上げようと、町民ミュージカル実行委員会が、5月28日、米子市中心部の、笑い通り商店街で開かれている「笑い市」に出店し、11月のミュージカル公演をPRしました。

同会の出店は今年で4回目。当日は5人の会員が参加し、「野菜や山菜などの品物は会員や地域の人たちから提供してもらったもの。応援してもらって力になる」と大きな声で呼び込みをしました。訪れた客に、旬の新鮮な野菜や山菜などの買い物を楽しんでもらいながら、ミュージカルについても話しました。

6月4日、組み木作家の小黒三郎さん（倉敷市）を迎え、木のおもちゃづくりグループ（金田美紀代表）が、木のおもちゃづくり教室を開きました。

町内外から約50人が参加。初めて木のおもちゃづくり挑戦する人もあり、にぎやかに行われました。

当日は、東日本大震災被災地へ送るおもちゃも製作。この取り組みに小黒さんは、「私のところに木のおもちゃが集まってきています。手作りは気持ちいが伝わります。手作りの良さはそこにあります。一つ一つ手渡したい」と決意を語りました。作ったおもちゃはメッセージが添えられ、被災地に送られます。